



横瀬町長 富田 能成氏

町長のメッセージ

池袋駅から西武線特急「ラビュー」に乗って72分。町のシンボルである武甲山（表紙写真）をはじめ美しい秩父の山々に囲まれた小さな町が横瀬町です。「日本一チャレンジする町・日本一チャレンジを応援する町」を掲げ、10年前（平成28年）に立ち上げた官民連携プラットフォーム「よこらぼ」が数々のプロジェクト（＝皆のやりたいこと）を応援する仕組みとして定着しています。令和7年、民間メディアの「住み続けたい街ランキング」で県下1位になり、令和7年度人口動態も12年ぶりに転入超過に転じました。

ぜひ横瀬町にお越しくださいませ。

はじめに

横瀬町は都心から約70km、埼玉県の西部、秩父地方の南東部に位置している。武甲山の北麓に広がり、東西8.2km、南北9km、総面積49.49km²、東はときがわ町に、南は飯能市に、西と北は秩父市に接している。気候は、山地に囲まれた盆地のため、寒暖の差が比較的大きいが、四季を通じて概ね穏やかである。

国道299号と西武鉄道秩父線が東西に走っており、秩父線には横瀬、芦ヶ久保の2駅が設置され、通勤・通学の足として、また、秩父地方の東の玄関口としての機能を果たしている。

都心からのアクセスはよく、雄大な自然と歴史的な文化遺産が多数あり、首都近郊の観光地として知られている。

🌟 日本一歩きたくなる町プロジェクト

横瀬町は、武甲山、二子山、丸山など1,000m級の山々に囲まれ、東西に横瀬川が流れるなど豊かな自然に恵まれており、多彩な登山・ハイキングコースが整備され、多くの人々が訪れている。

こうした資産を活かして、町では「日本一歩きたくなる町プロジェクト」を展開している。プロジェクトは、①住民の健康づくり（習慣化・健康寿命延伸）、②新たな観光誘客（地域経済と歩行の融合）、③人の輪づくり（住民×来訪者×行政の絆）の3つを大きな目標としている。

具体的な事業として、参加者全員の歩数を合わ

せて壮大な目標に挑む「地球5周チャレンジマーチ」などのチャレンジ企画を、毎年形を変えて実施している。

また、プロジェクトが本格始動した令和3年度には、住民や関係者から「ウォーキングコース」の公募（ウォーキングコースアワード）を実施。このとき誕生したコースが、町の健康づくりや様々なイベントの舞台として大切に活用され続けている。

さらに、幼児期からの正しい歩行指導で体力向上を目指す「歩育（ほいく）プログラム」、大人向けには、健康運動指導士が同行するウォーキング教室などを実施している。

これまでの取り組みが実を結び、「令和6年度埼玉県健康長寿優秀市町村 優良賞」や「フットヘルスアワード2025 取組部門最優秀賞」を受賞した。

町民にも観光で訪れる人にも横瀬町の魅力を体感いただけるとともに、健康づくりに役立っている。



大勢の人で賑わうウォーキングイベント

横瀬町概要

町の木 もみじ 町の花 チチブイワザクラ

人口(2026年7月1日現在)	7,391人
世帯数(2026年7月1日現在)	3,333世帯
平均年齢(2026年1月1日現在)	52.5歳
面積	49.49km ²
製造業事業所数	25所
製造品出荷額等	371.1億円
卸・小売業事業所数	40店
商品販売額	39.7億円
農業産出額	2.7億円
一人当たり都市公園面積	1.64m ²

資料:経済産業省「経済構造実態調査」ほか



主な交通機関

- 西武秩父線 横瀬駅、芦ヶ久保駅
- 関越自動車道 花園ICから町役場まで約27km

☀ 多世代型相談事業「よこぜ健幸ひろば」

横瀬町では、総合振興計画の大きな柱である、健康づくりについて、「生まれる前から高齢期までこころもからだも健やかに暮らせるまちづくり」を目指して健康増進計画を進めている。

この基本理念のもと、月に1度、総合福祉センターで「よこぜ健幸ひろば」を実施している。主な内容は、かわせみいきいきサポーターによる「かわせみいきいき体操」、理学療法士による「身体の相談会」、保健師や管理栄養士による「一般健康相談」、赤ちゃんのベビーマッサージや読み聞かせを行う「赤ちゃんくらす」、乳幼児の保健相談・栄養相談などを行う、「赤ちゃん・ちびっこなんでも相談室」である。複数の事業を同じ日に同じフロアで実施し、多世代交流をしながら、色々な専門職に相談できる事業を目指している。

世代を超えて、地域住民の「健やか」と「幸せ」を



かわせみいきいき体操

応援する健康づくりの拠点となっている。

☀ みんなでつくる「カラフルタウンよこぜ」

横瀬町では、移住検討者向けの「移住体験住宅」の整備や、家族で滞在し、子どもが地元施設に通い暮らしを体験する「保育園留学」を導入するなど、町の活性化に向けた様々な取り組みを行っている。

こうした移住に向けたサポートに留まらず、民間主体のチャレンジを町が応援する体制も強みである。行政・町民・企業をつなぎ、実証実験などを支援する「横瀬町とコラボする研究所(よこらぼ)」では、様々な企業や大学などと地域活性化や地域ブランドづくりをはじめ、多様なプロジェクトを展開している。また、ウェルビーイングなまちづくりを目指す「一般社団法人みんなで作る日本一幸せな町横瀬(しあつく横瀬)」では、伝統文化の継承などの地域活動へ、資金的な助成も含めた支援を行ってきた。

横瀬町では、こうした「官」主導に留まらない「民」の自発的な活動が広がっており、強固なコミュニティが形成されることで新たな人の輪が生まれ、移住者にとってもオープン＆フレンドリーな町となっている。

山あいの小さな町だが、令和7年度には転入超過となった。さらに、民間企業が実施した同年の「住み続けたい街」ランキングでは埼玉県内で1位を獲得した。多様性のある「カラフルタウンよこぜ」へ向けた成果が着実に表れている。

(吉嶺暢嗣)